

地震なんかに負けないぞ

新潟大学附属長岡小学校 三井田 秀

ぼくは、中越地震で、今までにない、そしてもう二度としたいくない体験をしました。家は亀裂だらけで、中はめちゃくちゃになりました。外の電柱も傾いて、今にも倒れそうです。何度も何度も余震が来て、怖くて怖くて、ぼくは、そのたびに身を縮めて、震えていました。ぼくの家は、電気、ガス、水道といったライフラインがすべて止まりました。次の

日、食糧と水は、避難所からもらい、町内会からパンが配られました。でも、お腹が空いているはずなのに、少しも食欲がわいてきませんでした。今思うと、ショックが大きすぎたのかもかもしれません。

みんながそのような時、家の前で電線の工事を暗くなくても、休まずやってくれている人達がいきました。その人は、たびたび余震がくる中でも、ぼく達のために高い電柱に登って、電気を復旧しようとしていました。水道

やがスの工事のも、きつと夜通し、一生懸命  
 直してくれていたのでしょう。ぼくの町内は  
 一週間ぐらいでライフラインが復旧しました。  
 けれども、余震が続くので、怖くて家の中で  
 眠れません。第一、めっちゃくちゃになってい  
 て、眠る場所がありません。結局、落ち着く  
 まで、二週間ぐらい、ずっと車の中で家族で  
 寝ていました。ぼくは、そのあとも、一人で  
 家にいる時に、「もしもまた地震がきたら」  
 と、思ってしまうようになり、一人で家にい  
 ることが怖くてできなくなっていました。  
 怖い思いは、今もまだ続いています。それを  
 乗り越えるために、地震なんかに負けないぞ  
 と、いつも心の中で闘っています。